

第8回 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画推進委員会 議事録

日 時：平成28年10月6日（木） 14時～15時40分
場 所：秋田市役所研修棟2階 第1研修室
委員の定数：13人
出席委員：9人

1 開会

2 議事

(1) 秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の進捗状況について

資料1をもとに、事務局から説明を行った。

委 員 長	「2 主な取組の進捗状況」の「基本方針8 認知症サポーター養成事業」については、指標をサポーター数とし、目標値をおおむね達成出来ているという評価だが、数ではなくて、サポーターの活動内容や実績等もあれば教えていただきたい。
事 務 局	これまで、民間企業や小学生など幅広いかたを対象に講座を開催し、まず第一歩としてサポーターとしての知識を身につけていただいている。受講後のサポーターの活動については、事例の検証という段階には至っていない。
委 員 長	エイジフレンドリーシティが実現できているかという評価は、中身がともなっていることが望ましいと思う。
事 務 局	認知症対策については、より多くのかたに正しい知識を身につけていただくことが第一歩であると捉え、サポーター数にて評価したが、評価方法について今後の課題とする。
委 員	認知症サポーター養成事業では、地域包括支援センターが講師を務め、終了時にアンケートを実施している。その結果から、今後自分の親への対応について役立てたいという声があるほか、企業からは、認知症のかたの対応について大変勉強になったということで、意識が少し変わったという結果が出ているように思う。

(2) 平成28年度秋田市エイジフレンドリーシティ民間事業者アンケート調査結果

平成28年度に策定する第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の策定にあたり、民間事業者の超高齢社会に向けた取組状況、高齢者の能力活用に係

る意識・課題および行政に対するニーズ等を把握するため、平成28年5月に実施した民間事業者アンケート調査結果について、資料2をもとに事務局から説明を行った。

委員 「5 実施または検討中の分野」の未回答が72社となっているが、これは「4 超高齢社会に向けて取り組んでいること」が「ない」と回答した事業者数を含む数か。4で「ない」と回答した事業者は5を回答する必要があるため、「ある」と回答した数のみで集計していただきたい。

事務局 そのように修正する。

委員 エイジフレンドリーパートナー事業については、仕事柄、事務局からパンフレットをもらい、約300人以上の団体に登録していただくよう徹底的に要請したが、建設業や大きな病院等が積極的に登録している一方で、商店の登録は少ない。個々の商店の力が弱いというのを感じているので、通町商店街のように、町並全体で登録するといった方向でパートナーを増やしていこうかなど思っている。

事務局 多数の企業団体にお声をかけていただき、感謝申し上げます。
通町商店街については、初の試みとして高齢者施設への出張商店街を実施したところ大変好評で、新聞にも掲載された。行政もパートナー企業と連携し、その取組をPRし、地道に登録数を増やしていきたい。

委員 パートナー事業の周知に関しては、新聞でもテレビでも何でも無料のものを全部使い呼びかけるべきだ。行政はそういったところが弱いので、我々民間と連携してPRすればパートナー登録が増えると思う。

委員長 「7 取り組む事ができない理由」について、「何にどう取り組んで良いかわからない」という回答が目立つ。こういった層にいかに関係情報を提供していくかが課題だと感じる。

委員 みんな難しく考えている。パートナーに登録するには、取組が3つあればいいだけ。商店であれば、来店時に会話をする、椅子がある、車椅子で入れるといった取組が3つあればパートナーになれると言ってもなかなか腰があがらない。簡単に考えれば良い。あまり難しく考えると何も出来ない。

委 員	同 じ く 難 し く 考 え が ち だ と 思 う。 お そ ら く 何 を や っ て も エイ ジ フ レ ン ド リ ー シ ティ の 何 か に な る の で は な い か。 例 え ば 標 語 な ど を 募 集 し、 も っ と 気 軽 に 手 軽 に そ こ に 入 っ て こ れ る よ う な 方 法 も い い の で は な い か。 ま た、 市 の ア ン ケ ー ト と し て 回 答 率 5 0 % と い う の は ど の よ う な 傾 向 か。
事 務 局	想 定 よ り 高 い 回 答 率 で あ る。
委 員	「 2 主 た る 業 務 」 で、 回 答 数 が 0 の 業 種 が あ る の が 気 に な る。 回 答 数 が 0 ～ 2 件 で は 物 足 り な い。 幅 広 く 意 見 を も ら う べ き で あ る。 特 に 農 林 水 産 業 は 無 視 で き な い 分 野 だ と 思 う。
委 員 長	高 齢 の 従 事 者 が 多 い 農 林 水 産 業 や、 高 齢 者 の 生 活 に 大 い に 関 わ る 金 融 業 ・ 保 険 業 な ど は、 む し ろ 積 極 的 に 意 識 を 持 っ て い た だ き た い。 ま た、 教 育 ・ 学 習 支 援 業 も、 高 齢 社 会 を 担 っ て い く 世 代 へ の 発 信 と い う 役 割 を 考 え る と、 回 答 数 が 0 と い う の は 驚 い た。 個 別 に で も 意 見 を 聞 け る 機 会 が あ れ ば、 で き る 限 り 回 答 を 集 め た 方 が い い の で は な い か。
委 員	秋 田 市 企 業 情 報 デ ー タ ベ ー ス の 掲 載 事 業 者 か ら 抽 出 し ア ン ケ ー ト を 発 送 し た そ う だ が、 そ の 際 に 業 種 は 考 慮 し た の か。
事 務 局	調 査 対 象 が 2 0 0 と 少 な い た め、 業 種 に 偏 り が 生 じ た の は 反 省 す べ き 点 で あ る。 企 業 デ ー タ ベ ー ス を 活 用 し た た め、 個 人 で 農 業 を 営 ん で い る か た な ど は 含 ま れ な か っ た。 農 林 水 産 業 で は 担 い 手 不 足 と い う 課 題 が あ る こ と か ら も、 今 後 関 係 部 署 と 連 携 し 現 状 把 握 に 努 め た い。 ま た、 今 回 発 送 し 無 回 答 で あ っ た 業 種 に 関 し て は、 改 め て 検 証 し た い。

(3) 第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の策定について

平成28年度に策定する第2次秋田市エイジフレンドリーシティ行動計画の策定背景や第1次行動計画での課題、計画策定方針等について、資料3をもとに事務局から説明を行った。

委 員	私 の 町 内 で は、 既 に 次 の よ う な 取 組 を 実 践 し て い る。 農 協 の 敷 地 を 我 々 老 人 ク ラ ブ が 環 境 美 化 す る 代 わ り に 花 の 苗 は 農 協 か ら 提 供 し て も ら っ て い る。 花 壇 の 手 当 て を し 花 を き れ い に 並 べ、 そ こ へ 毎 週 お も し ろ お か し い シ ル バ ー 川 柳 を 掲 示 し て い る。 行 政 だ け で な く 高 齢 者 も 街 の た め に 実 践 し て い る と い う こ と、 こ れ も エイ ジ フ レ ン ド リ ー な の だ と い う こ と を 市 の 広 報 で ぜ ひ PR し て ほ しい。
--------	---

		PRすることによって他の町内も「我々もできるんだな」と思う。そうやって老人クラブや行政が協力体制をとっていけば町並みがどんどんそういう方向にいくと思う。
事	務局	現在実践している取組のPRも含め、次期行動計画において、市民による取組事例として紹介することなどを検討する。
委	員	介護支援ボランティア事業では、福祉施設や児童会館でのボランティア活動に対してポイントが付与されているが、高齢者から活動の場を広げてほしいという要望があった。交通安全や見守りなどの活動にも付与できれば、活動しているかたにとって励みになるし、さらに協力者が増えるように思う。
事	務局	この事業について、ボランティア登録者数がある一定の人数から伸び悩んでいることもあり、現在、新たな活動の場を開拓しているところである。地域での活動に対するポイントの付与については、活動の確認およびポイントの付与を誰が行うかなどの課題があるが、先進地での事例を参考に、課内で連携し検討していきたい。
委	員	全国展開している「小さな親切運動」の秋田県支部の委員をやっている。草むしり、横断歩道の信号当番、ゴミ拾いなど小さなボランティア活動を行っている人を推薦し、そのかたたちが表彰される。秋田銀行が秋田県の本部である。長年頑張っている人たちに、そのような組織・運動があることを覚えていてもらいたい。
委	員	私の町内でも朝の子供の交通安全の活動があるが、彼らはボランティアではなく、一つの組織。そういうのではなくて一人で自発的にやろうというのがない。それが本当のボランティアなのかもしれない。
委	員	私もたまに順番が回ってきて町内活動をやっているが、必ず町内と関係ない人がきてくれて手伝ってくれる。そういう人を「小さな親切運動」に推薦すればもっと頑張ってくれるのではないか。
委	員	交通安全の組織などに我々が入っていくと、かえって迷惑になるのかなと思ったり、そのへんで勘違いしているかもしれない。
委	員	エイジフレンドリーシティは秋田市の重要な施策として取り上げられて数年経ち、組織なり人材なり予算をかけて努力してきたと思う。しかし市民の立場から言うと、「名前くらいは知ってい

るけど何をやっているかわからない」、これが実態である。担当者は一生懸命イベントや会議や研修会をやっているが、それが市民に届いていないのではないか。

また、第1次行動計画についての課題については、資料を見てなるほどと思った。課題を踏まえ、次期行動計画では、行政、市民、民間事業者の3者協働という方向性を明確にするという。「秋田市のエイジフレンドリーシティというのはそれなりにやっているんだな」と認識を持っていただくように知恵が必要だ。企業に対しては、パートナー企業になることのメリットを明確に打ち出していくことも必要だ。また、行政だけでは予算面で制限があるようなことでも、民間事業と連携することによって実現可能なこともあると思う。例えば、パートナーになってこういうことをしたらお客さんが増えたとか、あそこに行けば何か教えてくれるとか、もう少しフランクな立場で情報を共有できるような場所があるといいのではないか。

市民が「長い間かかったけれど他県に劣らない、さすが秋田市」と思うようになってほしい。そのためには我々推進委員が案を出し、積極的に協力することが必要だと思う。

委員 行動計画の文章を見てもなかなか行動がわいてこない。お年寄りを大事にするためにはお年寄りに何を教えるかということだと思う。私は店で講座を開いている。商店街連盟と商工会議所がお金を出し合い、各店舗が経験や知識を活かして講座を開いており、「タウンスクール・街の寺子屋」と呼んでいる。最初はシルバー講座と言っていたが、高齢者とその家族に対してこれからの不安や知識を知ってもらいたいと思い、講座名を工夫した。これもエイジフレンドリーの行動である。まず行動を起こすこと、そして文章、この二つでやっていけばいい。行政と民間がうまく連携すればエイジフレンドリーの名がもっと知れていくと思う。

委員 エイジフレンドリーパートナーは企業が手をあげて登録するという流れになっているが、反対に市のほうからも認知症サポーター養成講座を受講した企業に対して、パートナー登録を呼びかけてはどうか。

事務局 講座開催者と連携し、受講者にチラシを配布するなどしている。今後も地道に周知を図っていきたい。

委員 広報活動については、町内や企業におけるエイジフレンドリーについて毎月ざっくばらんに紙1枚に作り、市の広報誌にはさむという手法もある。例えば、編集はパートナー企業から協力して

もらい、コストはパートナー企業からの広告代で賄う。こうやって一年くらい毎月やらなければ、市がいろんなことをやったにも関わらずその効果がいまいち市民に伝わらない。具体的な行動につながらない。広報活動一つにしてもそうだし、パートナー企業との連携の在り方やコミュニケーションをとる場はどうするのか、そういうものを多面的に扱う会議も必要かと思う。失敗したら引き下がればいいし、効果が出なかったら次の手を考えればいい。民間企業のように、前に進むということをぜひ実践してほしい。

事務局 広報誌は業務委託で全戸配布しており、1枚はさむ方法であっても委託料が大幅増となるなど検討すべき課題がある。その代替として、現在はエイジフレンドリーシティ通信にて情報を発信している。今後も引き続きご意見をお願いしたい。

委員 予算面で難しいとのことだが、今は国の施策が地方活性化や地域の課題について積極的になってきており、金融機関や公的機関は政府から後ろを押されている。世の中だいぶ変わって来ているのだから、従来通りではなく、知恵を絞って様々な可能性を探っていただきたい。

委員 赤い羽根共同募金の一環として、募金百貨店プロジェクトというものがある。やはり他の企業の取組を紹介すると、「じゃあうちも」となっていく。他を見て初めてこういうことができるんだと思うので、そういうチラシの工夫も大事ではないかと思う。
また、市役所新庁舎の食堂でも「エイジフレンドリーランチ」を提供してはどうか。

委員長 広報の表紙に「エイジフレンドリーを推進しています」と掲載するなど、工夫の余地はあるのではないかと。
今年度、大学の授業で学生と駅前に行き、どんなふうに高齢者に優しい街づくりをしているか実際に見てみるという内容を実施した。学生はエイジフレンドリーシティ構想そのものを知らないという状態だったので、取り上げないと見てもらえない、わかってももらえないというのを肌で感じた。行政が引き続き説明していくことと個々がアクションを起こすことが必要。ご協力願いたい。

(4) その他

今後の取組について、資料4をもとに事務局から説明を行った。

3 閉会